

夢がある！ワクワクする学びの教科書

大正区の都市交通 市電と市バスの歴史

0. はじめに

1. 日本で最初の市電

2. 市電の歴史（大阪市電気局 時代）

2.1. 第一期線～第四期線と期外線

2.2. 市電がかけた橋

3. 路線図（市電からバスへ）

3.1. 市電路線

3.2. バス路線

3.3. 当時の写真

4. 市バス（大阪市交通局 時代）

4.1. 変化するバス停の名前

4.2. 大正区の特別なバス

5. 参考文献・引用

2023年5月13日 第1版

作成：地元ナビ.com

0. はじめに

大阪市大正区の区民であれば乗る機会も多いバス。バスになる以前は市電が走っていました。

本資料に出てくる市電とは大阪市電のことを言います。大阪市電について調査したまとめです。大阪市電とは、大阪市営電気鉄道(おおさかしえいでんきてつどう)の略です。わかりやすく言えば、大阪市が運営していた路面電車という感じです。



【大正橋】2654型 遠くに大阪環状線陸橋が見える 1966.10.30撮影

[http://railwayinmemory.sakura.ne.jp/HP0x117_OsakaStreetCar\(4\)Bank.html](http://railwayinmemory.sakura.ne.jp/HP0x117_OsakaStreetCar(4)Bank.html)

パンタグラフで電気を得ながら、歩行者や車と同じ場所に作られた線路の上を走行する電車。市電が開業しどんどん広がっていったこと。モータリゼーション(自動車の普及)の波に押され交通渋滞といった問題となり廃止となる。その後は、都市交通として地下鉄と市バスに変わっていった時代のお話し。

2023年4月25日

地元ナビ.com 御手洗賢秀

1. 日本で最初の市電

大阪市電が出来るまでの大阪は、大量輸送機関が存在せず人力車が主役の時代。
以下の文面を呼んでいると、まだ船が大活躍しており当然自動車もありませんでした。

大阪市電が産声を上げたのは、大阪市内に大量輸送機関がまったくない時代のこと。それまでは人力車が主役で、1900年大阪駅には450人もの車夫がいたという記録もある。馬車鉄道（四天王寺西門～東天下茶屋）や、巡航船（新町～湊町～戎橋～日本橋）が市内の人の移動を担っており、大きな荷物は船舶で運搬するのが通常だった。しかし当時の大阪港は川口町あたりで水深が浅く、大型の汽船が入れず大阪の商業衰退が続いていたので、海の玄関口として、今の大阪港の地に市民待望の「築港棧橋」が完成する。そして築港棧橋から、付近に商店の並ぶ九条新道や花街で有名な松島新地があることから西の心齋橋と言われ、大変にぎわっていた花園橋を結ぶ路面電車が1903年9月12日に誕生する。それが大阪市電だ。

(WEB：大阪市民の足であり日本初の市営の電車だった、今はなき『大阪市電』より)



泉尾梅之町3丁目 電停前の201型（現在の泉尾） 昭和10年8月

もう一つ写真を紹介しておきます。

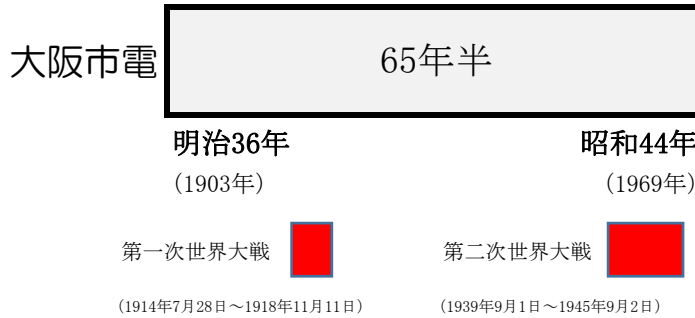


正確な年数はわかりませんが、右上に見えるのが初代の大正橋です。
おもしろいのは左下に「馬力」と呼ばれていた馬で荷物を運ぶ様子が
市電とともに写っている点です。

2. 市電の歴史(大阪市電気局 時代)

大阪市の市電は、いつ始まり・いつ終わったのでしょうか？

明治時代 (1868年～1912年)	大正時代 (1912年～1926年)	昭和時代 (1926年～1989年)	平成時代 (1989年～2019年)
44年間	14年間	63年間	30年間

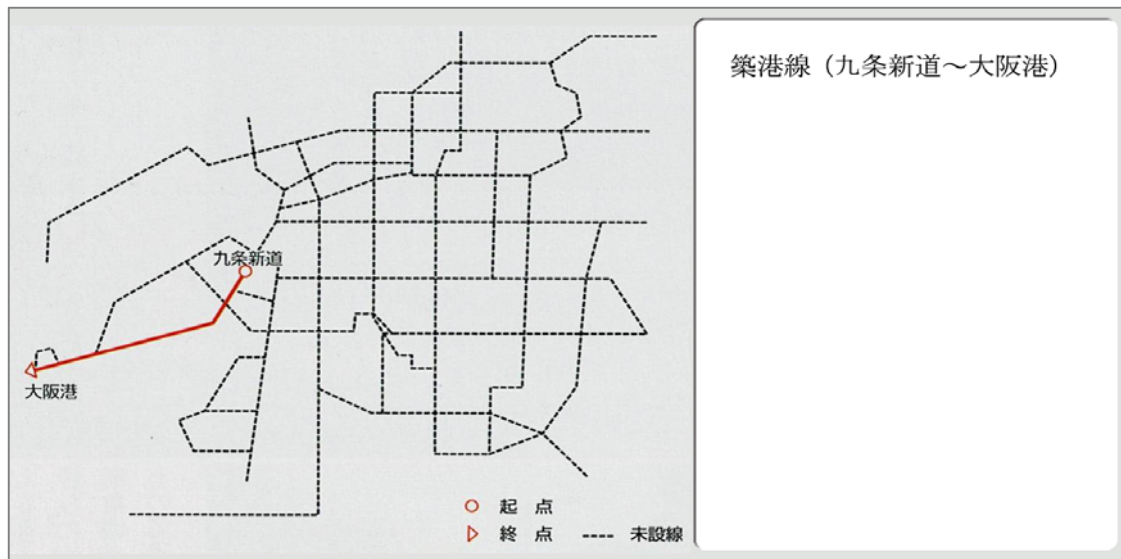


上記のように明治時代の終わりごろに開業し、昭和の半ばを過ぎたころ全面廃止。
市電が活躍しているさなかに2度の大きな戦争があり空襲などの被害もうけました。

しかし市電の普及によって、道路の整備や橋の架け直しなどが行われていったので
大阪の町が発展したことは間違いありません。

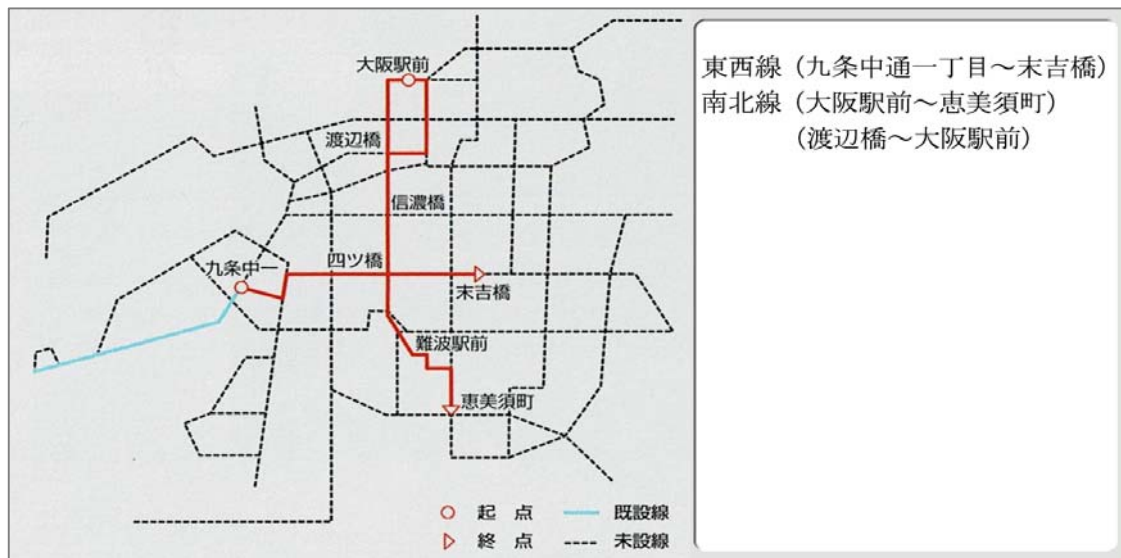
次にどのように広がっていったのか？路線拡張計画は大きく5つに分類されています。

2.1.第一期線(明治36年～)



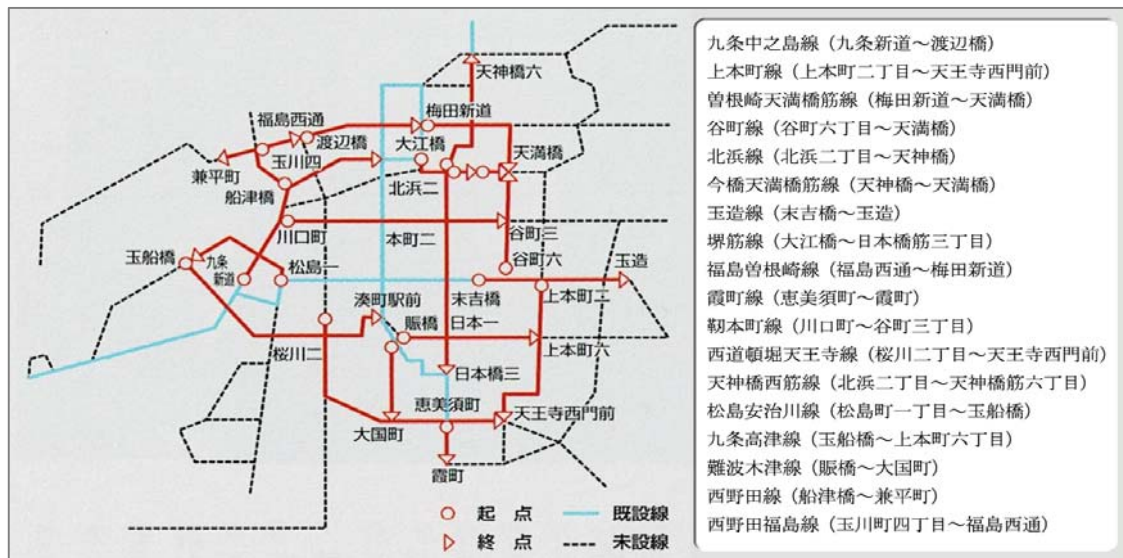
大阪港(築港)～九条新道までの1路線でスタート。
大阪港に大型の船がつける築港栈橋ができたことがきっかけ。

2.2.第二期線(明治41年～)



九条中一～末吉橋という東西に走る東西線と、大阪駅前～恵美須町という南北に走る南北線が開通した。

2.3.第三期線(明治42年～)



第三期は、大阪市内の中心部に鉄道ネットワークを構築。路線が広がりつながっていきますが、この後第一次世界大戦がはじまってしまいます。

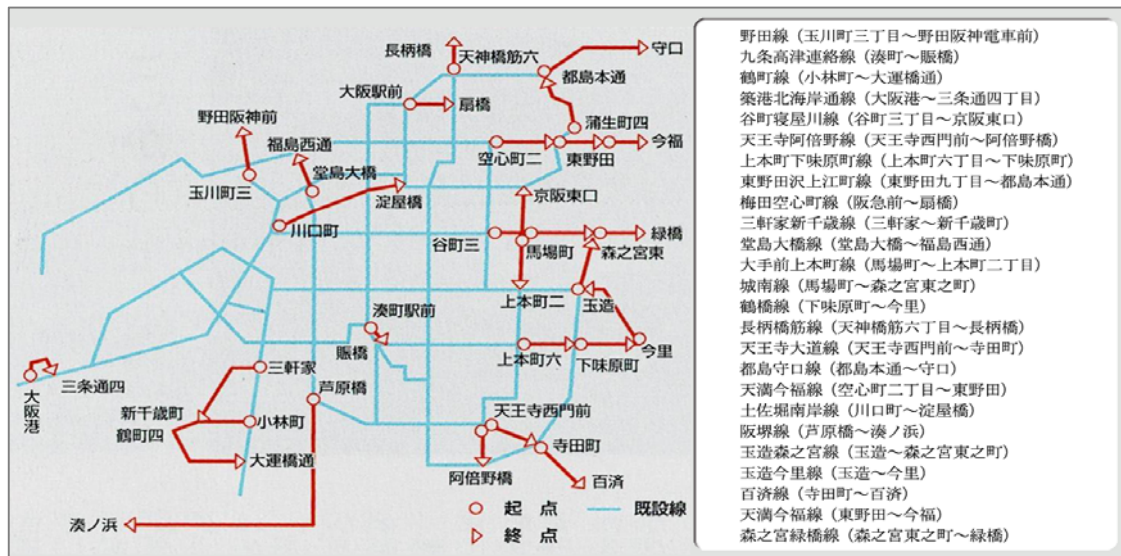
2.4. 第四期線 (大正10年～)



第四期線では、第一次世界大戦後に利便性を向上させた時期になります。

大正区内にも路線が1本できました。

2.5. 期外線 (大正7年～)



これまでとは異なり、適時輸送需要に応じながら路線拡張を行っています。

また少し遠方にまで移動が行えるように延長もしています。

大正区内には、別の路線も誕生しています。

しかし、第二次世界大戦による空襲や終戦後のモータリゼーション(自動車社会の普及)による交通渋滞の発生などから市電は衰退していくこととなります。



自動車の普及と市電で混雑する道路

<市電を通すために大阪市電気局がかけた橋>

第一期線	築港諸橋		
第二期線	伯樂橋	東雲橋	花宮橋
	上繁橋	末吉橋	高津原橋
	渡辺橋	肥後橋	西長堀橋
	靱橋	江戸橋	叶橋
	深里橋	伏見橋	浪速江橋
	桜橋	阿古島橋	名呉橋
第三期線	高松橋	鳥取橋	熊本橋
	中島橋	徳島橋	大江橋
	端建蔵橋	長堀橋	日本橋
	淀屋橋	(旧)難波橋	霞屋橋
	川崎陸橋	難波橋	樋ノ上橋
	扇橋	菅原橋	天神橋西一丁目拱橋
	天神橋筋四丁目陸橋	堀川橋	本町橋
	新出入橋	天満専用橋	信濃橋
	門樋橋	木津川橋	江ノ子島橋
	磐舟橋	大正橋	新壚橋
	幸栄橋	港町橋	賑橋
	芦原橋	関西線跨線橋	木津北島町陸橋
	南海線跨線橋	県道陸橋	木津勘助町陸橋
	市場橋	梅本橋	新船津橋
第四期線	岩松橋	材木橋	玉船橋
	幸運橋	幸西橋	阪栄橋
	白髪橋	穴喰屋橋	岡崎橋
	海部橋	千両橋	花之井橋
	土佐堀橋	都島橋	木場川橋
	宮下橋	逆川専用橋	西成線陸橋
	朝日橋	運河橋	城東線陸橋
	寝屋川専用橋		
期外線	港町専用橋	小林橋	栄福橋
	千歳橋	大運橋	昌運橋
	城東線跨線橋	南玉津橋	剣橋
	栄松橋	梅ヶ枝橋	老松橋
	中堀橋	沖ノ橋	嘉平治橋
	堂島大橋	新城北橋	向島橋
	桜宮橋	昭和橋	両国橋

※下線を引いた赤文字のところは、大正区に関係している橋です。

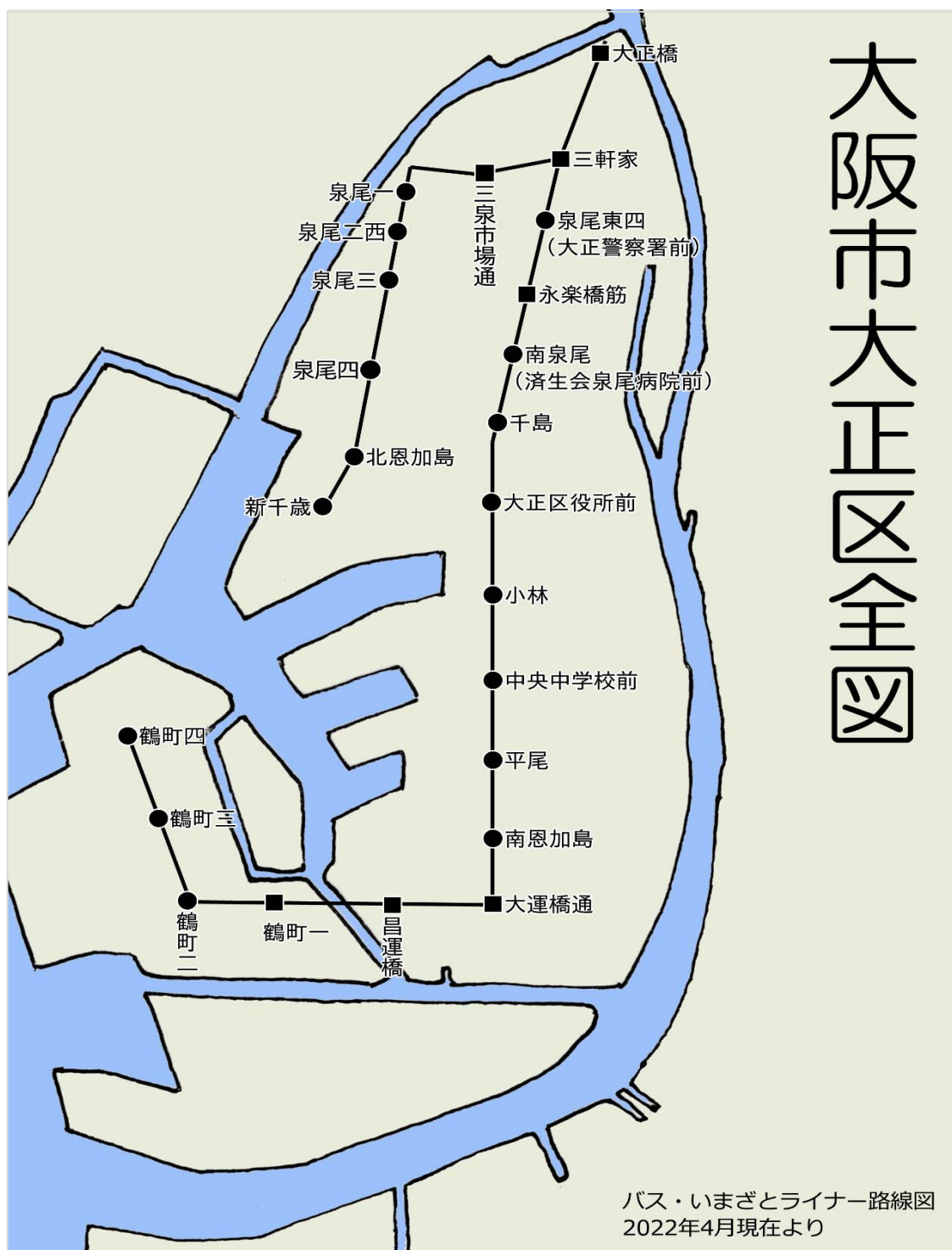
3. 路線図(市電からバスへ)

3.1.市電路線図



※市電が架けた橋を地図に追記しました。

3.2.バス路線図



前のページにある市電の路線図と比較してみてください。

3.3.当時の写真



大正橋

昭和42年3月2日

初代の大正橋です。
現在の大正橋は2代目。
信号も昔のものです。



岩崎橋

昭和44年1月11日

現在でもドームの近くを
通ると目にするタンク。
シンボルですね。



三軒家

昭和42年7月30日

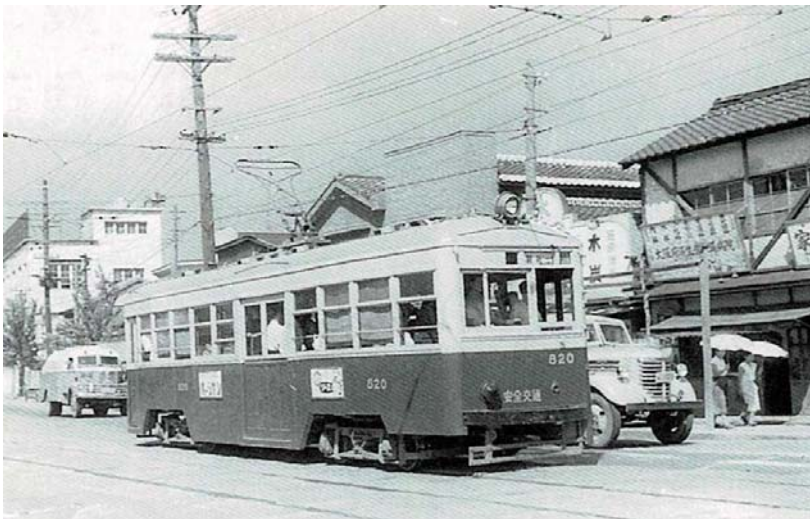
大正橋側から三泉商店街
に曲がっていくところです。



大運橋通

昭和42年3月2日

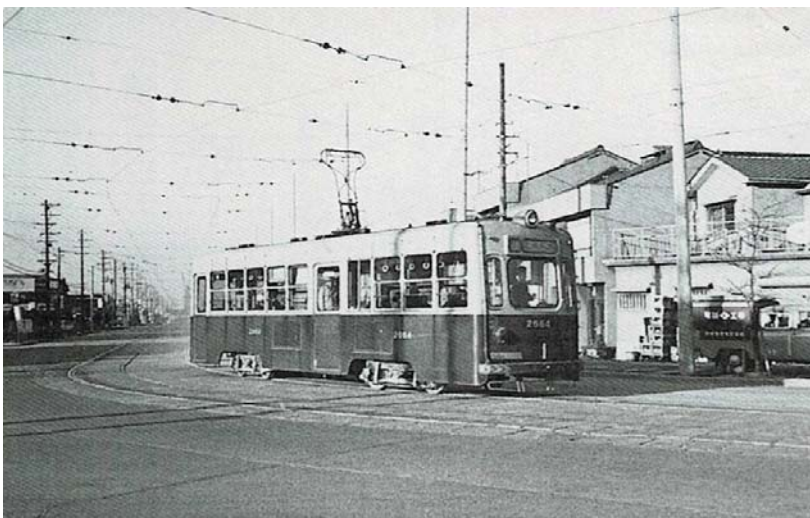
大正通りから鶴町の方に
向かっていく市電。
奥に見えるのは船町の
工場。



小林町

昭和30年9月5日

説明で左奥に見えるのは
NTTとあるので写真は
チャンピオンやマクドナルド
があるあたり？
それだと千島町？



鶴町二丁目

昭和42年1月17日

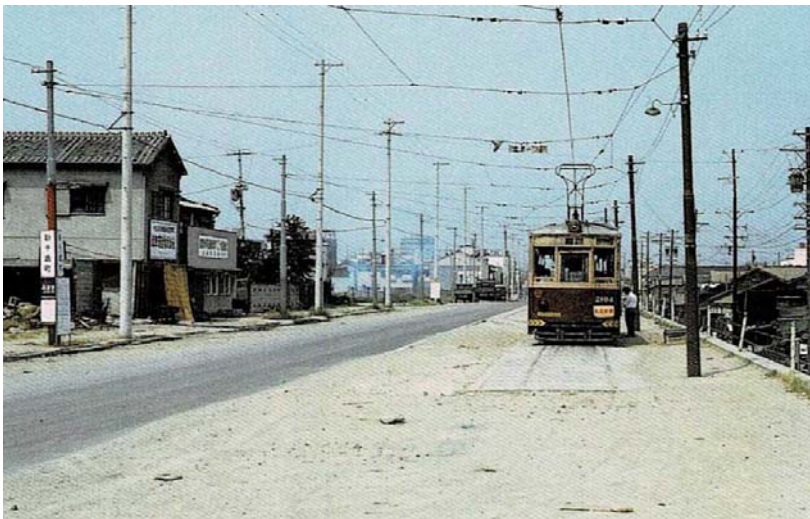
鶴町四丁目の方から大運橋
に向かって曲がって行く
ところです。



鶴町車庫前（鶴町四丁目）

昭和42年3月2日

市バスに変わった後も
バスの車庫となって
いた鶴町四丁目。



新千歳町

昭和42年3月2日

大浪通りの南終端。
右側の土地が低いところは
現在のテニスコートがある
北村マリパーク。

JTBキャンブックス「大阪市電が走った街 今昔 水の都の路面電車 定点对比」より。

4. 市バス(大阪市交通局 時代)

4.1. 変化するバス停の名前

基本的には市電時代の路線に沿ってバス路線ができています。
停留所についても引き継がれているように思いますが、バス停となってから名前が変わったものや追加されたバス停もあります。理由も含め見ていきましょう。

現在のバス停名	昔のバス停名
三軒家東四丁目	大正警察署前
南泉尾	済生会泉尾病院前

この2つは、バス停の名前に含まれている施設が移動して無くなったため名前が変わりました。
これ以外にも比較的あとから追加されたバス停もあります。

追加されたバス停名
大正区役所前

以前は小林←→千島でしたが、この間に大正区役所が引っ越してきたので新たにバス停が追加されました。



無料で商用利用可能なフリーイラスト Loose Drawing

<https://loosedrawing.com/>

4.2.大正区の特別なバス

大正区の人には普通のことですが、他の区に住む人からするとえっ？と思うことがあります。それは「急行バス」です。2023年5月1日現在 急行は3系統。昔は大正区だけだった？

<大阪シティーバスの91号(急行)>

- 1.鶴町四丁目
- 2.鶴町三丁目
- 3.鶴町二丁目
- 4.鶴町一丁目
- 5.昌運橋
- 6.大運橋通
- 7.中央中学校前
- 8.大正区役所前
- 9.大正橋
- 10.ドーム前千代崎

南恩加島、平尾、小林、千島、南泉尾、永楽橋、三軒家東四丁目、三軒家には止まりません！

<こぼれ話>

昭和の時代。赤急行と青急行というのがあったのをご存じですか？

2つの急行は停車するバス停が異なっていました。

	バス停A		バス停B		バス停C		バス停D		
赤急行	停車	→	通過	→	停車	→	通過	→	...
青急行	通過	→	停車	→	通過	→	停車	→	...



赤急行板を取り付けた市バス。

- ・赤急行→丸形＋赤色
- ・青急行→正方形＋青色

という区別がされていました。

<https://twitter.com/MDeeBUS/status/1359137792530345985> (Twitter マツダ@MDeeBUS) より

5. 参考文献・引用

<書籍>

大阪市電が走った街 今昔 - 水の都の路面電車 定点对比 -

(2000年発行、著者:辰巳 博・福田 静二、発行所:JTB ISBN4-533-03651-1)

大阪市電廃止記念誌「市電」 - 市民とともに65年 -

(昭和44年発行、発行:大阪市交通局)

大阪市交通局監修 大阪市電 - 路面電車66年の記録 -

(昭和55年発行、発行:鉄道史資料保存会 ISBN4-88540-029-5)

わが大正区 - 創設二十周年記念 -

(昭和28年5月28日発行、発行所:大正区役所)

<インターネット>

大阪市電(ウィキペディア フリー百科事典)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E9%98%AA%E5%B8%82%E9%9B%BB>

大阪市民の足であり日本初の市営の電車だった、今はなき『大阪市電』(LIFULL HOME'S PRESS)

https://www.homes.co.jp/cont/press/reform/reform_00691/

大阪市電(4) 沿線に写り込んだ旧名「銀行看板」点描

[http://railwayinmemory.sakura.ne.jp/HP0x117_OsakaStreetCar\(4\)Bank.html](http://railwayinmemory.sakura.ne.jp/HP0x117_OsakaStreetCar(4)Bank.html)

マツダ @MDeeBUS / Twitter

<https://twitter.com/MDeeBUS/status/1359137792530345985>

<その他>

河川・橋・渡船 …… 大正区歴史を語る会で入手

※堀の様子から昭和25年より少し前(昭和22~23年?)

§ あとがき

私が参加している「大正区歴史を語る会」では毎月大正区役所で定例会を開催。そこでは大正区の歴史を調べたり、資料を持ち寄ったりしています。

その中にあった”河川・橋・渡船”という1枚のプリント。大正運河があったころであちこちに貯木場なのか池のような場所が数多く見られます。そこには71もの橋が記されていました。すごいと思いませんか？

そしてたまたま知ることになった大阪市電の歴史。この資料の中には「市電がかけた橋」というのが出てきます。しかも71ある橋の中に市電がかけた橋が見つかります。

どのように路線ができていったのか？バスに変わっていった経緯、それと停留所の名前の変遷など。気になったことを調べまとめたのがこの冊子です。

出来る限り文字を少なくし、ビジュアル的に見てもらえるように編集しました。

タイトル： 夢がある！ワクワクする学びの教科書
大正区の都市交通
市電と市バスの歴史

発行者： 御手洗 賢秀
発行： 地元ナビ.com
発行年月日： 2023年5月13日 第1.1版
連絡先： info@jimoto-navi.com
印刷所： 自宅のパソコン



メール連絡用QRコード

当冊子内の文章・画像等の内容の無断転載及び複製等の行為はご遠慮ください。